2026年11月27日作成

2026年度　冬 季 テ ニ ス 大 会（団体戦）

主　　催　（一財）港区体育協会　　共　　催　港区教育委員会　　主　　管　港区テニス連盟

大会役員　大会会長　佐藤 信利　　ディレクター　加藤 潤
　　レフェリー　小林 清美　　大会運営係　TMTJ

日　　時　2026年12月20日（日）　9:00～16:00　※小雨決行

参 加 費　1チーム8,000円
※1チームにつき試合球ダンロップフォート2球入り（未開封）を3個を持参すること

会　　場　有明テニスの森　屋外 砂入り人工芝コート（1・2・3・4・9・10・11・12）
東京都江東区有明2丁目2-22
当日の連絡先 090-4930-3124（TMTJ 小林） ※会場への問い合わせはしないでください。
※雨天中止等は、決まった時点でホームページの新着情報でお知らせします。

種　　目　団体戦(男子ダブルス・女子ダブルス・ミックスダブルス)

集合時間　初戦に出場するメンバーが揃ってから受付をすること。
※集合時間までに受付をしなかった場合は失格となります。
全チーム　8時50分集合
ABブロック：4番・5番コートの間／CDブロック：12番・13番コートの間

試合方法　**〇予選リーグ**
A～D全ブロック4チーム：3対抗／6ゲーム先取
セルフジャッジ・ノーアドバンテージスコアリング方式
2試合で勝敗が確定しても、3試合目まで行います。
※同じメンバーが1対抗戦に2回出場は不可。
開始時に出場する6名が揃っていない場合はエキシビションとして行います。

〇決勝トーナメント
各ブロック1位チーム：トーナメント戦／6ゲーム先取または4ゲーム先取
セルフジャッジ・ノーアドバンテージスコアリング方式
2試合で勝敗が決まった時点で終了予定。
※試合開始時に出場する6人が揃っていない場合は、ダブルス2勝しても勝ち上がれません。
※1位トーナメントはダンロップフォートを運営が用意します。

※全対抗において男子ダブルス・女子ダブルス・混合ダブルスの順に試合を行ってください。
進行状況により、運営からオーダー表に合わせた順番の入れ替えをお願いする場合があります。
※進行状況により試合方法を変更する場合があります。

表　　彰　1位トーナメント優勝・準優勝チーム

そ の 他
・試合前の練習は各サイド、サービス2本とする。
・オーダー表の交換後のメンバーチェンジは認めない。
・けいれんやその他不測の事態が起きた場合は、日本テニス協会発行の「ルールブック」最新版に準じる。

チェアアンパイアのつかない試合方法(ルールブックより一部抜粋)　参加者は目を通しておいてください。

・セルフジャッジの方法

1)サーバーはサービスの前に、レシーバーに聞こえる声でスコアをアナウンスする。プレーヤー同士、その時点のスコアを確認する。

2)ネットより自分側のコートについて判定とコールをする。ボールがラインにタッチした時、ボールとラインの間に空間が見えなかった時、あるいはボールを見失って判定ができなかった時は「グッド」である。ボールとラインの間に、はっきりと空間が見えた時は「アウト」または「フォールト」である。

3)判定とコールは、相手にはっきりと分かる声とハンドシグナルを使って、ボールの着地後速やかに行う。

4)ダブルスの判定とコールは、1人のプレーヤーが行えば成立する。しかし、ペア両選手の判定が食い違った場合はそのペアの失点となる。
ただし、ネット、ストラップまたはバンドに触れたサービスを、1人が「フォールト」、パトナーが「レット(グッド)」とコールした場合は「(サービスの)レット」となる。

7)インプレー中、プレーヤーがラケット以外の着衣・持ち物を相手コート以外の地面に落とした場合、それが1回目の時は、レットをコールしてプレートを停止し、そのポイントをやり直す。2回目以降、落とすたびにそのプレーヤーが失点する。レットのコールは、落とし物をしたプレーヤー・チームがコールすることはできない。
相手プレーヤー・チームが妨害を受けたと判断した場合に限りコールできる。ただし、落としたことがプレーに影響を及ぼしていない場合はポイントが成立する。

8)スコアがわからなくなった時は、双方のプレーヤーが合意できるスコアまでさかのぼり、それ以降のプレーで双方が合意できるポイントを足したスコアから再開する。合意できなかったポイントは取り消される。ゲームスコアがわからなくなった場合も同様に処理する。

9)次の場合はレフェリーまたはロービングアンパイアに速やかに申し出る。
a.試合中、トイレ、着替え、ヒートルールなどでコートを離れる時
b.相手プレーヤーの言動やコール、フットフォールト等に疑問、不服がある時
c.プレーヤー同士で解決できないようなトラブルが起こった時

12)各判定とコールをする権利者は以下の通りとする。
a.「フォールト」「アウト」「グッド」はネットから自分側のプレーヤー・チームのいずれかがコールでき、その判定が成立する。
b.「ネット」「スルー」「タッチ」「ノットアップ」「ファウルショット」は両プレーヤー・チームのいずれかがコールでき、その判定が成立する。
c.「フットフォールト」はコート内にいるレフェリー(アシスタントレフェリー)、ロービングアンパイアのいずれかが行える。

14)コート外からの妨害による「レット」のコールは両プレーヤー・チームができる。

15) 誤ったコールをした場合(クレーコートを除く)
インだったボールを誤って「アウト」「フォールト」とコール(ミスジャッジ)したとしても「グッド」に訂正(コレクション)し返球が正しく相手コートに入った場合、1回目は相手への故意ではない妨害としてポイントレットにする。
そして、2回目以降は故意に妨害したとして失点する。ただし、ミスジャッジの前に打たれたボールが明らかなウィニングショット・エースまたは返球がアウトした場合は相手への妨害が起こっていないので、1回目であってもミスジャッジをしたプレーヤー・チームの失点となる。
ダブルスのペアの判定が食い違ったとしても「フォールト」「アウト」をコールしたプレイヤー/チームが「グッド」に訂正した場合も同様の扱いとする。

・コーチングなどについて

1ゲーム目の後、タイブレークのチェンジコート時はコーチングは不可とする。
コーチングを行うのはそれ以外のチェンジコート時のみ、試合中のコーチングは不可とする。
ボールのイン・アウトの判定やコールは、コート内の選手のみが行える。
フットフォールトについては、港区ルールとして監督1名のみ気づいた時点で指摘することができる。